

Think Globally  
Act Locally  
2009田中やすのり  
にっぽんを想う！  
Vol.3

## 消費税

## 文：田中やすのり



成増小学校、赤塚二中、城西川越高校、早稲田大学を経て、大手広告会社に勤務。広告会社のプランナーとして公共広告、社会問題を取り上げた広告キャンペーン

に触れたことがきっかけとなり、日本の社会問題をマスコミなどのコミュニケーションの力で良くしていきたいという気持ちを強く抱く。『日本をもっと良く、明るくしたい。そのために自分ができることは何か？』という気持ちに自問自答を繰り返し、民主党大学東京（第1期）に参加し、政治活動を開始。2007年に板橋区議会議員選挙に初挑戦し、3,988票で見事当選。現在、企画総務委員会、都市環境調査特別委員会（副委員長）にて活躍中。

今回の2009年税制改正で、2011年度以降に消費税の引き上げを準備することが付則として記され、大きな話題となったことは記憶に新しいと思います。しかし、私たち国民にとっては何のために使うのかといった議論がほとんど見えないまま、とりあえず増税ありきと進んでしまった観が否めません。

高齢化で膨らみ続ける社会保障費を賄うために将来的な増税は避けられないという見方が一方にはあります。ただ、現在の年金・医療・介護の制度に対する国民の不満は爆発寸前であり、将来への不安も急速に高まってきています。このような不満や不安を払拭しないまま、現制度を維持していくための増税への理解を得るのは非常に難しいだろう。また、増税はまずは行政のムダをなくす努力を最大限に行ってからでないと国民は納得しないと考える。今でも国と地方の二重行政、道路特定財源の一般財源化後の用途についての問題などが山積しており、こうしたムダの削減への取り組みはまだ終わっていない。

今こそ本気で政府のムダをなくすための努力を徹底的に始めてほしい。同時に持続可能な社会保障制度の将来像を国民に示すべきである。まず破綻寸前の年金制度をスクラップ&ビルドし、その新年金制度の上に成り立つことができる医療、介護制度を再設計するべきだ。そして、その制度設計にはどのくらいの財源が必要であるかも包み隠さずに国民に示す真摯な姿勢がこれからの政治に求められている。

<主要国の消費税(付加価値税)の税率(2008年1月現在)> ~財務省HPより

